（日刊）日曜日及祭日の翌日休刊　明治四十二年四月二十八日（水曜日）　第九十四號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●韓國氣象概況

客月の氣壓は前月の配置に等しく即ち北西方面に高く日本海岸に低し然れども其差三粍餘に過ぎず風向は尚は北乃至西を占め氣温は漸次増高し即ち平均に於て氷點以下に降りしは北部二三の地方に過ぎず最高極は中旬の初め大邱に於て十六度に達し最低極は中旬龍岩浦に於ける氷點下十二度餘なりし降水量は極南東部に於ける約七十粍を最多とし北西部方面を最少とす蒸發量は南岸及中部の黄海に面せる地方に多量にして極北西部に最も少なし今是を既往（五ヶ年以下同）に比すれば氣壓は僅に南東岸に過低なりし外概ね過高なりき氣温は一體に一度餘の過低にして北部は他に比して稍大なり降水量は咸北の一部に過少なりし外は凡て過多にして釜山に於ける二粍餘最も多かりしも過半は十粍以内に止れり蒸發量は前月と同樣に龍岩浦及元山に少なく二十粍内外の著しき過少に及びたるも過半は十粍内外の過多を呈し尚ほ更に各項に就て概況を叙すれば次の如し

▲氣壓　平均氣壓は仁川の七百六十七粍五と城津の七百六十四粍三との間にありて前月に比すれば北東部に約二粍の過高にして他は多く一粍以内の微高を呈したり

▲氣温　平均氣温は釜山の六度〇より龍岩浦の氷點下一度六の間にありて北部のみは尚は氷點以下にあり前月に比すれば悉く三度乃至五度餘の増加を呈するに至れり最高極は大邱に於ける十八度〇（十一日）にして最低極は龍岩浦に於ける氷點下廿二度一（十五日）之に次ぐは平壌（同日）及び城津（十四日）に於ける同十度〇なりし而して較差の最も大なるは大邱にして二十五度〇なりき

▲降水　最も多かりしは釜山にして七十二粍一之に次ぐは木浦の四十九粍にして三十粍内外の處多く最も少なかりしは北部にして平壌の十三粍一なり前月に比すれば北西及極北東部のみ僅に過少なるも其他は多量にして就中釜山は四十餘粍の過多なりし

▲蒸發量　南岸地方及京仁附近は百粍以上にして就中釜山の百十四粍〇を最とし最も少なきは龍岩浦の六十一粍四なりとす前月に比すれば孰れも十粍以上の多量にして三十粍以上の處過半に及べり

▲風　北乃至西の風位依然として最多を占め平均速度は前月と大差なく即ち木浦の九米〇より元山の二米七の間にあり本月中に於ける最大速度は木浦に於ける二十六米（二十五日）にして仁川に於ける二十三米九（二十四日）之に次げり暴風日數は仁川の二十一日最も多く其他沿海の地は多く十日以上にして最も少なきは大邱及中、元地方の三日なりき既往に比すれば城津に六日少かりし外は概ね三日以内の過多なりし

（新）（刊）（紹）（介）

●韓國中央農會報　主要記事は宮原忠正氏の「三韓人士に檄す」向坂幾三郎氏の「教育へ陛下の作物に就て」多賀宗延氏の「江原道概況」中泉田五郎氏の「森林の威力」等なり（三卷三號一部廿錢京城大和町韓國中央農會）

●貿易　例に依つて有益なる記事多し白仁氏の「滿州の現在將來」鳥居氏の「蒙古視察談」小林氏の「英領太洋島談」等は本號の讀物也（十卷十四號一部十錢東京々橋區宗十郎町日本貿易協會）

●韓國鐵道運輸　記事多く編輯又巧妙なり最初に會報を掲げ以下は有益なる記事を網羅す（四號一部五錢龍山元町韓國鐵道運輸聯合會）

佐倉宗吾

（六十五）　眞龍齋貞水講演

上『何と仰せられる、申し損じたかとは何事でござる、未だ老耄は致し申さぬ、上『本心にて申したに相違ござらぬ』雅『控へろ上野ッ、返す／＼も御上に對し無禮の一言、こりや其方に於ては、天秤一本に就いて、烙印を捺し運上を取立て、二割増の年貢を取立て、桶樽を以て年貢米を取立て居るではないか、此三個條は、天下の大法に背いたる致方、若し斯る事を上樣へ上申いたしたならば、忽ち汝の十八萬石に瑕瑾つくは勿論、先代の勲功も水の泡に歸する事と思ひ此雅樂は穩便に計ひ遣らせやうと存じ、態と念を押せば、本心でおやるの、老耄は致さぬとは、何の痴言ぢや、斯く相成る上は最早容赦はない、上樣へ言上に及ぶであらう、左樣覺悟に及べ』と、スッと席を御立ちになる、上野介に於きましては、狂氣の如くに憤り、御下城になり、堀田原御屋敷へ御歸りになつて、御家來方を召したるにて　上『コレ、六人の庄屋共、引捕へて重罪を行へ』と嚴敷に申し付け、に於て御評定を催はされました、亂に成つて居らつしやる、此方は雅樂頭忠

雅樂頭御立腹遊ばされましたが『イヤ／＼彼に於ても、心を落ちついたらば、又考へる所もあるであらう、斯らや如何しやう』と御思案へになつたが『然うだ、茶の友である、上野三十六坊取締、凌雲院大僧正を喚ばう』と、そこで凌雲院を駒込町の御屋敷へ御招きになりました、凌雲院樣は、兼て雅樂頭と茶の御友達であるから直ぐに御來になり御茶席に於て御茶を召上つて御居になると雅『さて凌雲院、ひとつ困つた事が出來たが御坊より致して、堀田上野介を御說き下さらぬか』陵『すれば又、如何なる事でありますか』雅『斯樣／＼云々』陵『イヤそれは以ての外である、御年齢が御弱いに依つて左樣な御疑念を發せられたのでござらう、愚僧が御引受け致します、斯る事は又、愚僧が方便を取りまして、能く上野殿に申し聞け、愚僧の頭の如くに圓く納むるでございませう』などゝ御觀談を仰つしやつて、御暇を告げ、御歸りがけに、淺草堀田原の堀田上野介御屋敷へ御立寄りになりました陵雲院大僧正に較へば、武家の官位にすれば、從二位大納言、權大僧正が從三位中納言の官位に相當する、大層なものでございます、其凌雲院殿が御出になりまして、上野介は豫て凌雲院樣とは茶を喫んで、數度御目通りをしてゐる、御知合の交情だから何事なるかと、一室へ通して御對面になる上『是は／＼御僧には、今日突然の御入り、何か急の御用にてもござるか』陵『ア、常日ながら上野殿、御上に對して御忠勤、御苦勞に存ずる』上『是は恐入つた事でござる』陵『さて愚僧が今晩罷り出ましたるは、余の事ではござらぬ、今日大老御席にて、雅樂殿より貴下の御領分の事に就いて、何か仰せられたるでござらう』上『如何にも』陵『それに就いて何か貴下が御心得違をなされてはならぬ、愚僧も御先代より御懇意であるに依つて、御心添に罷り出ました、必ず御大老は、御當家惡しかれとの御考へは、毛頭これなきゆゑ、遂に御大老の仰せを服從し直ぐに御國表掛方役人、其方政治を執る者、早速御調べに相成つて、御先代同樣、御仁政を御施し遊ばし、御領分百姓に安堵させまするやう、又此度出府いたして、御大老樣に御駕籠訴に及びし六名の名主も、それ／＼百姓一同の身を思ひ、御當家を思つての事なれば、是とて御赦しあつて宜しからう、若し御大老の仰せに從はるゝとあらば愚僧より宜しく御大老へ御斡旋いたすでござらう、只に承つて見れば、御先代より御知合の間柄、捨置かれぬに依つて、今宵愚僧が御尋ね致した』上『ホヽー、それや誠に辱けないやうなれど、貴下は御出家の事なり、天下の御政治に關しては、喙を御容れなさらぬで、佛の御守護を願ひたい、左樣な御忠言は御無用でござる』ブッと御立ちに成つた。

讀者告

南山町二丁目
植村病院跡
松岡醫院
入院隨意
電話六七五番

每月（二十五日）一回發行
韓國鐵道運輸
一部金五錢
一ヶ年前金五十錢
廣告料 五號活字十五字詰一行二十錢
●本紙は韓國唯一の鐵道運輸專門雜誌なり
●本紙の言論は公平眞摯にして記事は正確なり
●本紙は日韓滿の鐵道主要驛及び鐵道從業者に尤も多く頒布せらる
發行所 韓國龍山元町三丁目廿八番戸
韓國鐵道運輸聯合會
電話（四四〇番）
電信略號（レン）又は（レ）
振替貯金 大坂五二二四番

九州セメント
上等生石灰販賣
京城南山町一丁目電話三四四番　山村商店
龍山元町一丁目電話三四八番　中村運送店

▲ブドー酒・ブランデイー・洋菓子・菓物カン詰類
ガレット・シャンピヤン・ウヰスキー・キリンビール・タンサン水
卸小賣
直輸入商
本町二丁目
辻屋
本店 電話一四八番
支店 電話三六六番

明治廿年七月創立
東京火災（海上運送）保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九
事務所 京城本町二ノ三電話一〇六〇番

陸軍衛戍病院
大韓醫院
特定御用
京城南大門外
荒井牧場
電話 一〇五六番 開通
牛乳申込所ハ從來通リ左ノ三ケ所ニ存置仕候
本町一丁目三巴酒店（電話七五三） 南大門通三丁目日ノ丸
工場（二一七番）南山町一丁目井村工場（九八八番）
目下 當場 桃花滿開御遊覽御隨意
山上休憩所の設けあります

豫約募集
本書には統監府軍司令部師團司令部各理事廳鐵道管理局通信管理局各民團各商業會議所及び韓國政府中央地方諸官衙各國領事館職員錄を併載致候
京城理事廳認可

朝鮮紳士錄

縮クロース金文字入
定價一部金五圓
豫約特價前金壹部金參圓
申込締切期日 六月十五日
送本期日 七月十五日
登載事項 政治家、軍人、實業家、官吏、辯護士、醫師、敎育家、宗敎家、美術家、新聞記者、銀行家、會社、學會、敎會、寺院、協會、俱樂部組合
發行所 京城西小門通 京城新報社

豫約申込所
本町二丁目 日韓書房
新王城前 盛文堂
北署安洞 大韓書林
中署廣橋東邊 滙東書館
中署罷朝橋越邊 中央書館
南大門通 義生盛號

豫約募集
本紳士錄（交詢社式）には韓國各地在住の日韓滿英米佛獨其他紳士の全体を網羅致候へば公私實務者の坐右に欠くべからざる要書に有之候

▲美術半衿帯上其他組類各種
京城明治町一丁目
紀ゑり商店

京城新報

割增付債券發行

農工銀行を機關として

晩近韓國の經濟狀態は著しく險惡の趨向を來たせり、地方民心の萎微は殆ど極點に達し、從て商業取引の如きも殆ど休業の如き觀を呈し來る、若し夫れ現在の儘に放擲して顧ざるに於ては經濟界に非常なる恐慌を惹起し終に救ふ可らざるの窮極に陷入らむ今にして挽回救治の方法を講じ以て大恐慌を未前に防止するは實さに爲政者の任なり余輩の昨紙論じたる如く伊藤公も幸に此際頓悟覺醒せられ富の生産に重きを置かるゝに至れりとせば、今後の統監政治は生産的の方面に多少の發展を見るに至るべきか、余輩も亦世人と共に此沈衰せる經濟狀態の發展に就て方法を講じて其途を開かんとするもの也、

經濟狀態の改善に就ては素より幾多の方法あるべしと雖も、現に度支部に於て實施せんとしつゝある金融組合の增設により地方の金融を圓滑にし、或は交通運輸の便を開きて物資の集散をして安全に便利ならしめ其生産物をより高價なる市場に賣らしめ、より安價に需用品を得るの道を開く等所謂漸進主義に依りて、漸次に經濟狀態を回復することは必要なれども、今日の如く個人の萎微甚だしく恰も死灰の如き不振の窮極に達せるときに於ては、單に漸進主義のみにては容易に改善の曙光を見る能はず、更に一歩を進めて個人の萎微に對して興奮劑を與へて人心の發憤を起さゞる可らず、人心なるものは極めて微妙なるものにして、如何に萎微沈衰せるときと雖も、或る機微に觸るゝときは俄然として發奮するもの也、故に古より名君賢相は能く此哲理を應用して人心を新にせり、韓國現狀の場合に於て個人萎微の興奮劑として以て余輩が嚢きに提議したる商品取引所設置の如きも最も適劑たるなり、而して地方民に取りて更に最も適切なるは割增付債券の發行なりとす、殆ど萎微沈衰せる地方民には射倖心を挑發して活氣を起さしむるの必要あり、由來韓人は射倖心强しと雖も、未だ之を秩序的に組織的に善用されたる事なし、一例を擧れば清國彩票を購ふ韓人は頗る多し、之れ唯一種の賭博にして渠等は之によりて何等得る所なく其結果は金を失ふに止まれども、年々之が爲に散失する金額は決して少しとせず、若し夫れ此射倖心を秩序的に組織的に善用するに於ては必ずや良好なる結果を見るに至るべし、割增付債券發行を農工銀行に行はしめば地方民心の萎微を發奮せしむると共に、銀行は之に依りて低利の資本を集め從て農工業者に低利の貸付をなすことを得るなり、募債に應じて當籤したるものは必ず射倖心を滿足せしむる等所謂一擧兩得たるなり、而も其影響は廣汎にして人心の萎微沈頽を挽回するに大なる効果あらん勿論今日の農工銀行にては單に低利の資金を使用することに就ては他に幾多の便宜を有するならんも、韓人の信用する點よりして斯事に任ずるは最も適當ならん乎、統監府內乃至韓國政府部內にある道學先生抔は或は之を以て射倖心强き韓人をして賭博心を挑發するものとして排斥することなきを保せず、然れども斯の如きは迂愚なる說にして決して活世界に處する所以のものに非す、射倖心なるものは之を善用するに於ては意外なる効果を奏し一國の元氣も之が爲に旺盛となることあり、決して一槪に杓子定木を以て律すべきものに非ず、幸に余輩の此提議にして實行せらるゝに至らば萎微沈頽したる人心に少からざる興奮を與ふるや必せり、敢て當局者の攻究を望む、

東京電報

▲韓國鐵道員大海法 韓國鐵道從事員に近々大海法行はるべし

▲興業銀行法 興業銀行法の外國に於ける公益事業の趣意勅令を以て左の如く發布さる

帝國政府又は外國政府又は居留民團の施設する交通事業大藏大臣が公益に關すると認めたる拓殖事業 (廿七日發)

外報一束

●土耳古帝廢位決議 土耳古國首府君士坦丁堡に近きサンステファノに於て開催中なる國民會議は大多數を以て土耳其帝の廢位を可決したり

●虐殺尙繼續す 亞細亞の虐殺はアンテオーク地方(シリア)に於て尙繼續せられつゝあり

●英兵上陸準備 英國軍艦スウキフトシュアー號は數千名のアルメニア人が殺害せられたるアゲナ市に食糧を陸揚げせり

●波斯內亂と露國 波斯皇帝は飢餓に迫れる同國タブリッツ市へ食糧を送るべしといへる約束を破りたりされば露領高加索總督は同市に軍隊を發遣せり

●獨逸の新國債 本年五月三十日までに募集せらるべき獨逸國債は帝國公債三億二千万馬克、コンソル公債四億八千九百萬馬克にして其一半は利子四分、發行價格百二馬克七十片、他の一半は利子三分五厘、發行價格九十五馬克六十片なり

●米人保護依賴 華盛頓政府は目下虐殺掠奪の虞あるダブリッツにある米國人の保護を露國に依賴せり

●清國の購入砲 清國が獨逸より購入せし大砲十九門西伯利線にて長春に着せり

●小麥買占成行 紐育パッテン氏は引續き優勢にて一般人民殊に社會主義者に批難の聲を發し警官は彼を護衛しつゝあり

●副統監慶州着 曾禰副統監は二十六日慶州着各所を巡覽の上郡衙に投宿したる旨其筋に電報ありたり

●辯護士法發布 韓國の辯護士法は昨二十七日の官報を以て發布せられたるが五章三十四條より成り第一章總則に於ては辯護士の職務を定め第二章には辯護士資格第三章には辯護士名簿第四章辯護士の監督第五章懲戒にして來る六月一日より施行する由

●實業學校令の發布 實業學校令は愈々昨二十七日の官報にて發布されたるが其の內容は左の如し

第一條 實業學校は實業に從事するに須要なる敎育を施すを以て目的とす

第二條 實業學校の種類は農業學校、商業學校、工業學校及實業補習學校とす

蠶業、林業、畜産及水産に關する學科を主要として敎授する學校を農業學校と看做す

徒弟學校は工業學校の種類とす

第三條 實業學校は二種類以上を合して一校となす事を得

第四條 實業學校は其設立區別に從ひ國の費用にて設置するものを官立とし道、府、又は郡の費用にて設置するものを公立となし私人の費用にて設置するものを私立となす

第五條 公立又は私立實業學校の設置及廢止は學部大臣の認可を受く可し

第六條 實業學校の修業年限は三ケ年とす但し土地の情況に依りて一ケ年以內を伸縮する事を得

實業學校に二ケ年以內の速成科を置くことを得

第七條 實業學校に入學し得る者は年齡十三歲以上にして普通學校を卒業したる者又は此と同等の學力を有する者たる可し但し速成科に關しては本文の規定に依らず入學する事を得

第八條 實業學校の敎科用圖書は學部より編纂するもの又は學部大臣の檢定を受けたる者を用ゆ可きものとす學校長は學部大臣の認可を受け前項以外の圖書を用ゆる事を得

第九條 實業學校にては授業料、入學料を徵收する事を得

第十條 實業補習學校及徒弟學校に關しては學部大臣は別段の規定を設くる事を得

第十一條 本令施行に關する規定は學部大臣之を定む

附則

本令は頒布の日より施行す

●定例參與官會議 昨日午前十時より各參與官統監府に參集定例參與官會議を開きたり

●吉原副總裁の出張 東拓會社副總裁吉原三郞氏は來る三十日出發仁川より群山に到り諸路沿道を視察する筈にて往復約十日間の豫定なりと

●學務主事と訓示 第一回任命の學務主事九名に對し一昨二十六日內部次官、地方局長及び府郡課長より衛生に注意すべき事韓國の事情に精通すべき事等の訓示ありたるは既報の如くなるが尙昨二十七日は學部次官より敎育上に關する訓示ありたり

●學務委員の囑托 漢城府內に於ける官立普通學校九校に對し二十六日張漢城府尹は一校三名宛の割合にて都合二十七名の學務委員を囑托したるが尙學部よりは隈本第二課長列席の上學部の希望を述べたりと云ふ

●罹災戶と救恤金 全南道益山郡春浦面に火災あり五十餘戶を燒失したることは當時の紙上に報導したるが內部は一戶に付約二圓の救恤金を支出せしむる筈なりといふ

●農銀支配人會議 度支部大臣は來月八日より向ふ十日間の豫定にて韓國各農工銀行支配人會議を漢湖農銀本店樓上に開催する事に決し一昨日夫れ〴〵召集狀を發したりと同會中は當局より重要諮問案を提出し支配人(全部日本人)の意見を聽取する筈なりと云ふ

●文川義捐金支出法 咸南文川郡の饑饉救恤の爲め內閣其他の官衙職員より義捐したる金額は總計六百五十圓にして內部は最も正確なる方法に於て之を保管し必要に應じ隨時支出すべしといふ

●內閣總辭職の勸告 慶尙南道星州郡の儒生李潤なるものは此程其筋に向つて內閣總辭職の勸告書を提出したる由なるが其理由は現內閣成立以來國家の治蹟一として擧らず而も國民は現內閣に對して怨嗟怨恨の念ありと云ふに在りと京通は報せり

●未墾地處理進捗 一昨年九月十五日韓國未墾地利用法實施以來同法に基き利用許可を出願せるもの客月末日迄に壹千三百十六件此の總面積十萬一千一百九十五町に達したりと今日韓人出願別及び許可數を記せば左の如し

▲貸付請願受付數 千三百十七件內日本人五百七件韓人七百十件、同總面積十萬千百九十五町內日本人五萬三千八百五十一町韓人四萬七千三百四十四町

▲既に許可せし總件數 七十九件內日本人二十二件韓人五十七件、同總面積四千六百七十四町內日本人七百七十六町韓人三千八百九十七町

▲不許可總件數 十六件內日本人十件此の總面積一千五百三十一町

▲請願書却下數 三百四十五件內日本人百六十七件韓人百七十八件此の總面積二萬五千三百九十二町

尙此外同法頒布前に利用權を獲得し居たるものにして證據を申請したるもの七十二件此總面積九千百十六町なる由

●川崎民長辭表提出 川崎元山民長は過日理事官より豫算を再議すべしとして却下せらるゝや民會の威信を如何せんと熱心に反對したるも理事官より愈々其の不心得を諭されて引き下かりたるが去る頃再び辭職を理事官の許まで呈出したりと然れ共豫算も濟まさずに辭職をするとは餘りに無責任のことなるを以て理事官よりは更らに今は其時期に非ざるべしとして却下せられたりと傳ふる者ありされば豫算の認可下らば氏は直ちに辭表を呈出することゝなり居れりと云ふ眞僞未だ信ずべからざるも兎も角聞くが儘を記すことゝしぬ

●葉錢回收高多額 政府は葉錢を整理する爲め納稅、交換、買上の諸方法に依り其回收に努め居たるが回收開始以來本月十五日迄の引上額は合計八十七萬四千五百十三圓此の整理資金額百七十三萬〇八百三十七圓なりといふ

●事務官の農相訪問 島根縣事務官藤本充安氏は二十六日午後四時李農商工部顧問官と同道趙農相を官邸に訪問したり

●日本人敎師の任命 今般官立漢城師範學校及同高等學校に左の如く日本人敎授の任命ありたるが尙中等程度の官立學校にも不日夫れ〴〵數名の日本人敎師の任命ある筈なりと

(師)地歷科、元愛媛師範學校敎諭三國谷三三郎(師)農業科、元島根縣師範學校敎諭福島百藏(高)博物科、元福井中學校敎諭森爲三

●世界漫遊團の入京 トーマス、クック社の幾に係る世界一週團體一行十名はハーゲン氏に引率せられ昨二十七日朝連絡船にて下關より釜山に着同夜來京せり因に一行は大連より安奉線に依り入京の豫定なりしが同線は目下途中徒步を要する區間ありたる爲め海路を採りたるものなりと云ふ

●生牛輸出と檢疫所 韓國より每年日本支那及露領に向けて輸出する生牛は昨年度に於て二萬四千六百三十頭にして此價格七十一万七千〇五十四圓なるが這は稅關の鑑定價格なるに依り其の實價よりすれば正に一百萬圓以上にして言ふ迄もなく韓國の輸出品中米穀の次位に在るものなれば農商工部に於ては輸出奬勵保護の目的を以て檢疫所を設くる筈にて目下其官制案の起草中なるが今其の輸出地及仕向先を示せば左の如し

輸出地	隆熙二年度輸出頭數	同三年度	仕向先
釜山	一二、八二〇	一四、三三六	日本
馬山	一、七三〇	一、一七六	同上
仁川	一、四六七	八九〇	同上
群山	一、一六六	二〇三	同上
木浦	六五二	六七七	同上
元山	四、四七七	一、七五七	浦鹽
城津	一、八八三	三、七七五	同上
新義州	一、三九七	一、一一六	淸國
龍岩浦		一一六	同上

●仁川淸商の引き揚 仁川に於ける支那商人は財界不振の結果一月以來其の根據地なる芝罘に引き揚げつゝあるが昨今に至り財界の不況は其の極度に達したるを以て芝罘に引き揚ぐるもの頻々として出で來り今日までにて十一名に達せりと

●衛生組合の組織 龍山軍司令部用地は京城民團の區域に屬せるが同軍用地の發展に伴ひ行政機關の設備を要するを以て豫てより同地に衛生組合を設置し以て民團役所との連絡を保ち且つ消防組をも組織する等の必要あるを以て近日中同地在留者の集會を促し熊谷民長も出席して種々協議をなす筈

●勝田理財局長來京 大藏省理財局長勝田主計氏は滿韓視察の途次來月初旬入京の筈なりと云ふ

●明石少將の東上 明石參謀長は參謀長會議列席の爲め昨二十七日夜出發東上す

●永濱總長の群山行 永濱關稅總長は群山開港紀念式に臨場旁群山木浦地方視察の爲め昨二十七日午前七時二十分南大門發列車にて下仁海路先づ群山へ向け發程せり

●三少將の赴任 旅團長會議列席の爲め出京中なりし垣吉少將は二十七日出發須永香川兩少將は二十九日發赴任の由

●松井局長の出張 既報の如く松井警務局長は本二十八日午前八時五十分南大門發列車にて東上せる筈

●四王天課長の出張 農商工部會計課長四王天數馬氏は既報鶴岡書記官と共に昨朝平壤へ向け出張せり

●黑田太久馬氏出發 黑田太久馬氏同夫人は本朝八時五十分南大門發にて歸國されたるが官民及其の他知己の見送人多かりし

●隈本中學校長訪問 京城中學校長隈本氏は着任挨拶の爲め昨二十七日午前十一時熊谷民長と共に統監府及理事廳を訪問せり

●運動會と委員會 來る三十日東大門內訓練院に於て開催さるべき漢城府內官私立學校春季聯合運動會委員會は本二十八日午後一時より學部に於て開會すべしといふ

●岡山縣人會の開會 同會にては來月二日(第一日曜)正午より擁翠樓に於て第三回縣人會を開會する由當日は知名先輩諸士出席する由なれば繰り合せ出席されたしとの事なり因に申込期日は三十日迄にて申込所は本町六丁目岡野寫眞店の由會費は二圓也

●中央大學々員會 中央大學々員會は來月九日龍山八景園に於て開會の筈なり

●賊魁を殪す 一昨年來より京畿道各郡を橫行せし暴徒總大將朴來乘の參謀長となり多數の首魁及び賊徒等を指揮して同郡の重鎭に任し朴來乘戰亡後は其位置を襲ひ魁將軍として他の賊徒近畿徘徊せられし金錫夏は昨年八月所感あり多數の部下と共に楊州郡內齋面奄峴里に來り一時歸順せしも其後再賊群に投し隣郡なる楊州加平永平地方へ出沒せることを探知せる抱川憲兵分遣所長伍長山川傳次郞氏は直に間諜を放つて搜索中金錫夏は配下李烈年と共に部下十四名を率ひ永平郡東面何陽里に潛伏して居るを探知し小川伍長は上等兵一補助員四を從へ現狀へ出張したるに彼は直に逃走せるを以て追擊中其蹤跡を失ひたるも徹夜搜索の結果同面直乘洞北方山中金州山に潛伏し居るを發見し同處に於て交戰遂に首魁金錫夏外二名を殪したりと云ふ尙彼死するに臨み實兄及母又義弟李般護(龍山にて就縛せし首魁)にも彼が戰死のことの傳言を殘して逝けりと

●辭令

統監府囑託 菱田靜治

東京、釜山、馬山へ出張を命ず

近事片々

▲統監 府も東拓會社も露境露領の殖民狀態を見よや如何に露國政府が銳意せるかを

▲西比 利亞鐵道にて歐洲に行く人は皆露國が東亞に移民を送るの頻繁なるに驚く哉

▲現今 にては一日千人の割合を以て續々輸送し來る十年後の西比利は面目一新せん

▲是に 反して帝國の韓國經營は遲々たり滿韓移民集中杯と擧言するも唯是聲のみ也

▲聲は すれども姿は見へぬホンに花節は民の耳だとの俗諺は全く此聲明に適中せり

▲移民 集中には保護を要す從て財政不如意にて其志を逹ずる能はずとは逃げ口上也

▲露國 の財政は帝國よりも却て窮迫然るに銳意移民增殖を計り或は鐵道を布設す夫

▲然る に韓國に於ては敢て移民を保護するに及ばず自由開放拘束を解けば夫で可也

▲殖民 地經營には人間の毛嫌ひは不可思ひ切て開放せよ然らば移民は案外に增さん

▲當局 者は先づ各國の殖民地に如何なる人間が居るかを調査せば必ず悟る所あらむ

▲伊藤 公近來日韓一家說を唱るに非ずや日韓が一家ならば何人が來るも敢て妨げず

▲殖民 地は如何なる人間をも呑むの宏量を要す徒に干涉を事とせば失敗に終るべし

▲伊藤 公は口には隨分立派なる事を言ふも事實が伴はざる觀有日韓一家說亦然らん

▲山縣 公と桂首相とは伊藤公の統監辭任說に就て密議せりとの事なるが其決定如何

▲後任 者に適當の人物なきを以て暫く伊公を据置く可しと暫く經ては適任者ある乎

▲山縣 桂の密議の要點は知らざるも最早宜加減に後進の適材を擧て統監と更迭せよ

▲閔族 一派は勢力を回復せんとして宋秉畯と結託せりとの說あり果して然るや否や

▲宋氏 の狡智なる閔族の富を利用して勢力を張らんとする下心ありと云ふ者ある也

▲東拓 監事松平野田の兩人近々來るべしと云ふ東拓の現狀を見て必ず一驚を喫せん

▲東拓 會社は現狀を打破して面目を一新するに非ざれば其前途や頗る寒心に堪へず

▲會社 が徒に無用の長物に畢るは可なるも日本人に殖民經營の能力なきを笑はれむ

▲土國 の形勢頗る險惡土帝は終に立憲軍に屈服せりと列國の干涉潮の如く來らん乎

●韓國太子の參內 京城電報 韓國皇太子

●浦港と關稅輸入 浦港新聞に於ける自由港は本月十四日を以て閉鎖せられたる事は世人の知る所なるが

の調査に依る日韓兩國と同港との間に關係多き物品は適用すべしと認定せる者の如し

ブルの四五、稅は無稅なるべし

▲醬油每プード風袋共一〇留

共每プード三五〇其他牛巾組は一フント一

身者の組織せる五高同窓會は來る三十日午

●度支部員の野遊會 既報度支部及所屬

●島根縣人會開會 縣本島根縣事務官外

東京電報

▲韓太子の參內 韓國皇太子殿下には來る三十日閔泳昭以下八名を從へ參內し天皇陛下に御對顏了りて后閣以下にも謁見被仰付筈なり(二十七日發)

[illegible]韓國關税[illegible]は去月十四日を以て閉鎖せられたる事は世人の知る所なるが同時に施行さるべき關税率に就ては未だ同國官憲の發表したるものなきも某官憲の[illegible]日韓兩國と[illegible]との間に[illegible]多少物品に適用すべき[illegible]如し

▲米、精米は毎プート(一プートは四十フントにして我四貫三百六十匁)税率一ルーブル[illegible]プード二十五留五〇

▲玉葱及果物中蜜柑、林檎は無税

▲素麺風袋一割と差引き毎プード二一〇

[illegible]共毎プード三五〇其他半巾絹は一フント一二留四〇石炭生牛は無税なりと

●高等學校園遊會 熊本第五高等學校出[illegible]ホテルに於て島根縣人會を開會する由

●度支部員の野遊會 既報度支部及所屬官廳員百餘名は去る日曜日冠嶽山に於て野遊會を開きたるが種々の餘興あり盛會なり

雙影(一)

南船北馬樓主人

第一章 誤解(一)

大和町はれ寺詣での歸るさか、但しは情人の門より出でし、新町あたりの女作であろふ、彌生は花の黄昏時を、時に急ぐ二人連あり。

一人は年増で仲居風の、何處となく澁ました顏、一人は十九か二十歳位ひの、さして美人と云ふのではないが、色白の圓顏で見るから愛らしい婦人である。

「まあ姐さん、れ松さんては那麽に酷い人でせうかね、妾は些少とも知らなかつたわ」

「否ねね、君ちやん、妾だツて彼の人を餘り好い人だとは思つてゐなかつたけれど、眞逆這麼のやうな……病人の小使錢まで捺奪つて、それで根塲の方は獲黄にして逃げるやうな……那麽酷い人とは思つてゐなかつたのよ。」

「眞個に酷いわね……、妾、山田さんに濟まないわ。」

「だつて夫は君ぢやないぢやないかね、君ちやん、何も、れ前さんが知つたことぢや無いのだもの。」

「それでも山田さんは、乾度、妾を怨んでゐるに違ひないわ。」

「だからさ、夫れはれ前さんから懇ら斯うだと云つて能く事情を話して見るが可いわね何も彼人だツて全然の沒分曉漢ぢやないのだもの、決して那麽野暮な事を言ひはしないと思ふわ。」

「夫れは爾うだけれど……。」

二人は語り續けつゝ、今しも大和町二丁目の阪を下つた。と、年増は對手を顧みて、

「ちよいと君ちやん、彼處から來るのは山田さんぢやないの。」

「……………。」

「ね、ホラ山田さんだよ。」

「否ね、違つてますよ、姐さん。」

「でも、能く似てるぢやないかね。」

「だつて山田さんは、あんなに痩せてる人ぢやないのだもの……。」

と打ち消しながらも、彼女は若しやと思ふのであろふ、凝然と瞳を凝して見目戍つたが、男は二十五六でもあろふ、顏といはず手足と云はず、見る影もなく痩せては居るが、鐵縁眼鏡の奥に底光のする瞳を据ゑて擦れ違ひざま、鋭く女の方を睨んだまゝ、足早やに行き過ぎやうとする。

「あらツ、山田さん。」

と女は懐かしさうに呼び掛けた。

「……………。」

「ちよいと、山田さんてば……」

「什うしたんですよ、山田さん、一寸待つて下さい……。」

男は默つたまゝ、ズン〳〵と行つて了ふ、女は堪らなさうに、駈け出して行つて、追ひ縋るやうに男の袂をグイと握つた。

「何、何をするのだ。」

大喝一聲、右足を揚げて、女の胴腹をハタと蹴ると、哀れや野路の女郎花……女は其場に蹌と倒れた、それと同時に已れもヨロ〳〵と蹌めいたが、衰弱せる体は機を食つて同じく地上にハタと倒れた。

●砲兵と水兵衝突

▲對州鷄知の大椿事

對州下縣郡鷄知村白江橋附近に於て去る十八日午後五時頃水兵と重砲兵大隊の兵と衝突し互に銃劍を揮つて格闘したる大椿事ありしは東電既報の如くなるが同日は日曜外出日の事とて外出兵風紀取締のため重砲兵大隊にては特に巡邏兵を出したるが同一行が前記白江橋附近に差しかゝりたる折柄上陸中の一運四五名の水兵と出會したるに件の水兵連は巡邏兵が敬禮をなさゞりしとて咎め立て巡邏兵の一行は勤務中なれば敬禮をなす所以なしと突返したるより端なく口論となり平素多少相反目し居る上其中には酒氣をも帶び居たる水兵もありしこととて何を生意氣な挨つて仕舞へと一人が言へば血氣にはやる水兵連はそれつとばかり巡邏兵に打つて懸りたれば巡邏兵も默つては居ず三名にて相應じ茲に双方の**格闘**となりたり、それ水兵と陸兵の喧嘩よと人々打騒ぐを聞傳へ附近に散歩し居たる水兵、重砲兵の面々は各自に駈付け來りて味方に助勢せしため一段と火の手を揚げ入亂れて奮闘する中何時の間にか白刃閃き鮮血迸り茲に由々しき大喧嘩となりたるが中にも巡邏兵の一名は所持の**銃に着劍**して**一水兵の脇腹深く突**き込みたり夫れと見たる七八名の水兵はあの巡邏兵を生かすなと押つ取り卷き棍棒にて滅茶苦茶に亂打したれば件の巡邏兵は頭蓋骨を碎かれて**打倒**れたるにぞ双方共愈々氣色ばみ形勢容易ならず見れたる折柄急報に接して駈け付け來りし**陸軍の一少尉**は之を制止せんと猛り切つたる双方の中に飛び込みたるに水兵連は却つて激怒し果ては水兵の爲め**引倒**され身体各所に重輕傷を負ひ次で來りし憲兵も帽子帶劍を奪はるゝなど大騒ぎのところに**憲兵隊**の**總出**にて駈付け重砲兵大隊もまた**非常喇叭**を吹きて在營兵を呼集し週番士官之を引率して駈せつけたればさしもに猛烈なる爭鬪も漸く鎭撫し竹敷水雷敷設隊も急電に接して一隊を鷄知に急行せしめたるが其時は既に鎭靜後なりしより其儘引返したり、斯くて此爭鬪により重輕傷を負たるもの多數にて中には**生命覺束**なきものさへありといふ而して此の爭鬪に關係せる數十名の兵は目下憲兵隊に拘留され取調中なり(對州通信)

●仁川の火災 一昨日午後九時三十分と云ふに仁川山手町二丁目鯖樓の前面に當り一條の猛火天に沖して揚るを認めたる市民は素破火事よと現場に駈け付けたるが折柄午後より降り初めたる雨は愈々大雨となり恰も篠を衝かん許りなりしも火勢は尚ほ衰へず火元なる仁川の大家主清國人吳禮堂方の間にありし二間半奥行四間の洋風家屋を燒き盡し十時十分漸やく鎭火したるが斷に隣、たかめ等を控ね裏手は夜學校に接近し居れば一時は大騒ぎをなしたり

●合せ鏡(五) 魚遊痴史

(伊達之守殿の花較を見て)

▲れ千代に今奴

巖石がれちよが動ぬ態度 ほんに氣高い松樹の花

伊達の素足のアノ婀娜姿

▲梅之助に權太

ひかし忘れぬ今やつこ 酒に浮世の花なり實なり

など〳〵句ほはす梅之助 權利の數さへ千本ざくら

醉ふて權太の大威張り

●淫賣婦の拘留 仁川警察署にて再昨日市中の淫賣檢舉をなしたることは昨紙記載の如くなるか其の結果京町二丁目吉田す方海原せき(二十)宮町二丁目光月亭方吉村こも(二十)京町二丁目宮地字一方山本うら(二十)花町二丁目木村松之助方末吉さの(十八)宮町二丁目天樋かね方元橋ふさ(二十)は何れも拘留五日に處せらる

●一昨日の新町 一昨日の新町遊廓は月曜日の事とて前日より殆ど半數の客足にて登樓總數九十四名費消高五百十一圓五十錢此内京城樓の十三名と八十二圓三錢が最多數なりしと

●待合醉月の開業 當地旭町二丁目名古屋城横手に新に醉月と稱する待合開業されたるが万事低廉を旨とし大に來客の便利に努むると云ふ

●はねのば誌(上)

僥蛤生

▲我輩は二六時中籠の如な狹き一廓內に生息して居る月給鳥である、寢るにも起るにも八釜しい規律づくめ、されど慣ては之を窮屈とも感せず苦痛とも思はず、此處にさへ不動として御座れば、餌は獵り求めずともれ自から得らるゝ心易すさ、結句浮世を離れ、樂天國と觀念すれば、自由の人間の皺も伸して見たいと、一鳥囀づれば同僚の鳥ども其聲に和して技成を唱へ、鳥議忽ち一決してサア其場所は何所が好かろうか我々は實際籠の中の鳥で、平素世間様へ顏出をせぬゆへ、人の子の餘り澤山寄つて來る所は、何んだか怖しい樣な氣がして、却て樂しみにならず羽を伸すどころか翼が縮んで仕舞ふも不可ぬから、イッソ彈の子等の無暗に來ない塲所、アノ西大門內の慶熈宮の松山が宜かろうと極つた。▲尙ほ日本の鳥と韓の鳥と共同で行ろうと云ふ事になり、卯月廿四日の午後一時を期し、同所に飛來すべき様う〳〵同僚の鳥に鳥集合状を發した、燒蛤生も其前身の雀に返化つてれ仲間入をさせてもらひ、其日は他の鳥よりも先に飛行て準備にとり掛つた、ヤガテ時刻になりたれば、西の空から東の天からも舞込で來た大鳥小鳥が、日本種と朝鮮種とを併せて、六十餘羽の多きに達した。

▲午後一時三十分呼子鳥の一聲高く鳴響するや、其を合圖に諸鳥一齊に羽翼を正し口嘴を揃へて二列に整頓した、茲に於て御大鳥は嚴正の態度を以て前列の一鳥隊に左の如き鳴令を下した。

是より假設的とりもの演習を行ふ、之は洋裝せる物とりと韓裝せるもの鳥の二羽が人間の財物を睬み來りて此構內に紛れ込み居るの形跡あるに付き、今より三十分以内に搜索を遂げ發見次第召とり來るべし

(未完)

●無切符の乘客 列車は今出發と云ふ間際に一人の少年が笛を手にせる車掌へ來て『小父さん〳〵切符の無い人が二人乘つて居ますが知つてますか』何處にと聞かず驛夫共始め驛中總掛りで一々大勢の乘客を調べると云ふ騒ぎ然かし無切符は一人もなかつたので車掌はどこに居るかと聞くと少年は『アスコに』と指したのは機關手、二人即ち機關手と火手のことであつた、かくして二十分は美事に遲れた

捏造中傷無用のこと

小便も亦御斷り申候

▲世の中と云ふものは隨分面白いものです金を貸して夫れを催促するのには謝まらねば取れぬ、取れぬ敢て借錢ばかりではない何んでも貸した方が弱いのである面白い(面白生)

▲鯛の白焼を山葵醤油で食べるのは仲々甘味いものですな(春月)

▲妾は新聞記者さん方は信用の出來るものと思つて居ましたが中には勿々信用の出來ない方がありますので困ります尤も京仁間の其方達は此の内には這入つて居りません(南山女)

▲南山女さんよ御迷惑をなさつた事があれば姓名を記して御投書下さい、でないと新聞記者全体が迷惑することに成りますから(探り記者)

▲西小門通りの古川床ではアノ吖嘩にして而して上手な職人と放逐するとの事とだ斯くては到底繁昌覺束なし(角刈男)

▲貴新聞社は隨分酷い私輩が貴社が發起になつて運動會を催して下さいとれ願ひしたに何んの御返事もなく御自分達だけで秘密に盛大なる花見を催して平氣で居なさる實は申上げるの失禮と思つたから會費のことなぞは云ひませんでしたが一圓や一圓五十錢の費用なら分擔する心算で居ましたのに執行した後で『本社のれ花見』なぞと羨ましがれと計りに發表するのは罪ですよ怨めしいと化けて出たい位です(一讀者)

▲ヤ、申し譯けもない始末で實は實はその……と申しては濟みませんが……實はその忘れて居たのですよ(給仕)

▲魚と野菜と何ちがれ嗜き私は野菜が嗜きです(野菜好)

▲馬鹿だナアコンナ事を態々一錢五厘奮發して端書で遣すことがあるか、併し僕は何ちが好きであるが魚類か好きだ(小僧)

▲アーアツ出家得道覺束なしだ(給仕)

▲彼の源氏節の美根由と云ふ小兒は實際天才だ美根松君後繼わりと云ふべしだ(平民)

▲一と一とは二だ男に女を乘ければ何に(飲學者)

▲答へて曰く五(兒)だ(小僧)

●韓語獨習

日語	韓語
京城より電信が來ました	ソウルツ、チョンボカワツソ
電報、ウツテ、來い	チョンボ、ノッコ、オナラ
何にか話をれ聞きでしたか	ムスン、マール、ツル、ウーツソ
イヽエ	アーニオル、シタ
其の、話は聞きません	ク、マル、モツツロツソ
貴君は、御覽なさつたか	コングワヌ、ホンツソ
まだ見ないのです	アーチク、アンニ、ポアツソ

天氣豫報(自廿七日午後六時至廿八日午後六時)

南西風雨後曇

廿六日 最高温度(華氏)七一、二 最低温度 五一、八

各先瞿石鹸 專門製 用

陸軍、鐵道、船舶、識工、鑛山、水道、

京城旭町二丁目

明日石鹸製造所

廣告

●南大門外官舍新築工事右五月三日入札ニ附ス詳細ハ廿六日以後ノ官報又ハ當所ノ掲示ヲ見ヨ

建築所

諸傘並に提灯類 印入

和洋蠟燭あり

京城明治町一丁目 大島商店

電話開通 九五五番

生蕎麥 東京庵

壽町三丁目

急告

弊商會從來京城長谷川町に於て業務罷在候處今般都合に依り前川商店に契約し韓國總代理店を京城南大門横に開店し舊支店同樣親切、安價、確實を旨とし營業に從事仕候に付相變らす舊に增し御引立あらんことを奉希願候

各位

韓國一の自轉車店

開業

自轉車及玉突臺 直輸入 大阪 角自轉車商會本店

韓國總代理店 京城南大門横 前川商店

四月二十二日龍山に於て春季自轉車競走大會聯合撰手第一着月桂冠たる相川留市氏は常にラシクルに乘用す四月二十二日龍山春季自轉車大競走會に於て聯合第一着の名譽を得たるラシクルは他自轉車より二割七分輕快なり

見よ……撰手の名譽

見よ……ラシクルの名譽

金四錢

京城廣江商會

電話五七六番

家庭用燃料 無煙炭

用途 炊事、暖爐、風呂に適す

居留民團 省煤炭所東鄰 谷口無煙炭工場

京城特約店 京城南大門通 電話六〇三番 巴商會

韓國一手販賣 京城太平町二丁目 利田組

▲無料紹介欄▼

人事部

清語通譯 希望 當初給料望まず 氏名在社（二一二）

一年齡二十歳身体強壯高等小學校卒業家內の少き內に於て雜役就職傍教授を受くべき家に下女奉公を望む 旭町一の三二九 まちだ（二一三）

破雇 甲種商業學校出身一年志願兵現役終了給料不望個人商店を望む身元確實 姓名在社（二一二）

商業事業を求む年廿三身体頗強壯軍隊出射擊術に通ず報酬を不望（衣食に差支へなき限り） 氏名在社（二一四）

看護婦 年廿才五寸ぺーイに雇はれたし持點飯百二十以上 龍山大島町新玉軒にて津田（二一七）

看護婦 募集す志望の方は至急申込あれ 明治町惠愛看護婦會

看護婦 三名入用 南山町二 松岡醫院

給仕に雇はれたし 氏名在社（二一八）

下女入用 年齡不問 給金働き次第 氏名在社（二一三）

多少法律事務に心得ある事務員一人雇ひ入れたし希望者は午前九時前御越の事 明治町二の七五岩田辨護士（二一二）

月劍竹二郎君に告ぐ長谷川町宮田屋洋服店へ履歴書提出されよ（保）

雇はれたし 家族少なき家を望む十九女（氏名在社）

十六七の職弟子入用 但し當地に確實なる保證人有者 明治町二丁目 衛生床（二三五）

藥局生に雇はれたし內地にて多年經驗あり醫院若くは病院を望む身元確實保證人有り 氏名在社（二三四）

物件部

賣家 大和町三丁目地百餘坪の建物あり官吏商人に適し風景環境もよし望の方御來談あれ 社內 矢島

貸間 旭町一丁目至極便利の場所電話附（又は賄附にても）にて十一圓貸したし 氏名在社（二二五）

難子雄日本產尾中願し從來使用中の者至難にかゝれり心當り御報の者へは謝禮 龍山鐵道官舍八十八號前 丸山（二三一）

廣告

開業廣告

今般左記の所に於て左の業務を開始し懇切且つ迅速を旨とし事務取扱可致候條御用命を蒙り度伏て奉懇願候敬白

一 登記及裁判所手續
一 諸願屆及裁判所提出書類代書
一 定款規約の起案
一 債權取立代辨
一 土地家屋賣買電話讓渡其他金錢貸借擔保の仲介
一 土地建物積山測量

京城旭町貳丁目百六十二番戸理事廳橫通り

金子專一 電話（取次）七八九番

●賣家● 龍山旭橋通り

一 瓦葺二階及平屋 敷地三十三坪
一 間數十四造作付

但旅館用道具共一切御相談に應じ右賣却す望の方は御來談被下度候

龍山 丸万旅館

▲清潔の下宿▼

客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候

壽町二丁目十番戸橫小路（元花屋跡）

▲懇切の下宿▼ かめ屋

東京流 席貸 待合 電話一〇二五番

統監府御用 諸官衙人力車 荷物荷造及運搬

伊藤組

營業 京城曙町（電話[illegible]）
本店 同本町三丁目（電話四〇番）

裁縫專門 和洋料理 教授

明治町二丁目三十一番戸 野村サワ子

規則御望の方には郵券二錢被下候得者直に御送付可仕候

電話開通一一一一番

青々園

風味趣味實質の三者を兼備す 正銘宇治茶京都の茶器 故に尤も進物用に適當なり

茶及茶器商 京城本町四丁目 青々園茶舗

高等待合 紅葉

京城南大門通三丁目 起業會社筋向

設備の不行屆と客室の清潔ならざるは當所の適當なると御愛顧とを以て償ひ得て餘りありと存候

辯護士 岡田榮

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）

京城旭町二丁目六十七番戸（電話三九八番）

新荷着廣告

歐州各國帝室御用品 品質優等、意匠艶麗

G.D.印トルコ金口煙草（百本入 十本入）

外各種 百本入、二十本入、十本入とも右今般多數入荷致候に付精々廉價發賣致候間多少に不拘御用命願上候

追て見本品並に價格表は御申越次第御送附可申上候

直輸入元 仁川本町一丁目 トルコ煙草商會 電話（七一五番）

大好評と大流行の クラブ洗粉

クラブ洗粉は三越吳服店を始め各化粧品店に販賣せり

純良 牛乳 元祖

平山牧場 京城大和町一丁目 電話百二十三番

營業科目

活版活字鑄造 石版銅版 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 罫線 製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ益々營業ノ擴張ヲ圖リ候間倍舊御引立ノ程奉願上候

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目（電話三三三番）
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十（電話新橋三九六二番）

地方よりの注文は御一報次第代金引替にて郵送致し若し御足に合さる節は何時にても御取替申すべく候

電話開通九百十九番

キット深ゴム 八圓
一枚皮ボックス深ゴム 七圓五十錢
半裁一枚皮ボックス深 五圓五十錢

京城本町一丁目 富田靴本店 電話九百十九番
同 本町六丁目 同第一支店
同 南大門外 同第二支店

特約販賣自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目 大上商店（電話二五一番）

和洋酒、罐詰、穀物麵類、銘茶、鑵詰、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、醬油各種特約販賣 御注文に依り商品切手調進仕候

西洋御料理宴會 京城ホテル 京城南山町三丁目（電話一二三番）

會席御料理 富士見樓 本町八丁目

多年の經驗にて建築の完全を期し料金は便宜御相談可申候也

本町四丁目 中川卯之助 電話六九一

★株式會社百三十銀行 韓國支店 京城本町二丁目十五番戸 電話五十八番

資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎

爲替取組先

畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戶、平野、住吉、茨木、下市
東海道 東京、横濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪
東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、土崎、高崎
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、富山、伏木、新潟
山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田
山陽道 龍野、姬路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、鞆、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、平生、下關、萩、德山、小郡、長府、網干、牛窓、味野、岩見、興山
南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、洲本、撫養、德島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱
西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲
北海道 函館、小樽、札幌、
台灣 臺北、臺南、
清韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、晉州、馬山、

銀行一般の業務精々便利取扱申可候

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店 仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 五月 九日午後三時出帆
●大連、太沽、牛莊行 高砂丸 四月 日正午時出
●大連、太沽、牛莊行 山東丸 四月 日前五時出
●大連、太沽、牛莊行 酒田丸 五月 十三日正午出帆
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 四月二十八日

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●購讀料 ▲一ヶ月金二十錢 ▲三ヶ月 ▲六ヶ月 ▲一ヶ年
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新報社